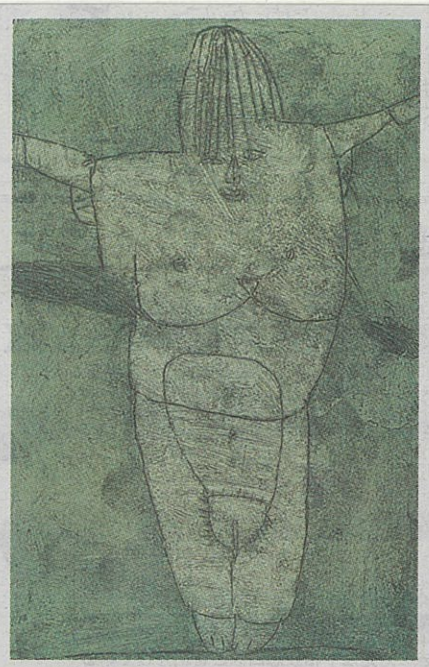
文化・芸術



「春」
1990年、コラグラフ、パーネミューレ紙、89・0センチ×56・5センチ（作者寄贈）

掛井五郎（1930～2021年）

掛井五郎は静岡県音羽に生まれ、1949年18歳の時に彫刻家・木内克に出会い、以後師事しました。東京芸術大学彫刻科に学び、中原悌二郎賞最優秀賞、高村光太郎賞最優秀賞等の受賞を重ねます。一貫して具象表現を追求し続け、また日本国内80カ所以上もの場所にパブリックアートを残しました。あらゆる枠組みを嫌い、「個」として自立し制作と向き合った掛井の作品は、近年再評価が高まっています。

91年からは約4年間桐生市内に暮らし、ノコギリ屋根の織物工場をアトリエに仕事を展開。版画工房との協働によって多種多様な版画にも挑みました。

彫刻ではなくその版画を見て初めて「掛井芸術に開眼した」という初代館長・大川栄二は、「人柄そのものの如（ごと）き奔放な筆致、何かが不足しているような未成熟さ、それが逆に純粋なものとしてプリミティブなものもつ無限の密度すら感じ、〝とにかく線が生きている、そして叫んでいる〟といえるのである」と述べました。（小此木）

名画の扉

大川美術館企画展「大川栄二生誕100年記念　コレクターの目」から